多様な民族が一緒に暮らし、働き、意見を言い合える、魅力ある国際都市を目指して欲しい。

―― 西南学院大学　学長 G.W.バークレー**氏**

G.W.バークレー（Gary Wayne Barkley）
1984 年サザンバプテスト神学校大学院博士課程修了。専門は歴史神学。
西南学院大学神学部教授を経て、2006 年 12 月西南学院大学学長に就任し、現在に至る。福岡市には約 25 年在住。

より良い福岡になった 25 年

1986 年 9 月 1 日は、私が東京から初めて福岡にやって来た日です。ちょうど 25 年が経ちます。当時の福岡も良い都市だと思いましたが、今はさらに良い都市になっているのではないでしょうか。

25 年前、東京を車で出発して途中フェリーを使って門司港に着きました。それから、九州自動車道に乗って古賀 IC で下り、また都市高速に乗って天神北 IC で下りました。初めて運転する福岡の道路に戸惑い、少し道に迷いながら目的地に到着したことが思い出されます。当時と比べると、今は道路も整備され、案内板も日本語以外に、英語、韓国語、中国語の表示がされている箇所が増え、非常にわかりやすくなっています。

25 年の間には、「よかトピア博覧会」も開催されました。残念ながら海が少し遠くなりましたが、整備された埋め立て地には、福岡タワー、福岡ドーム、シーホークホテルなどができて、百道浜周辺は綺麗に住宅が整備され、西南学院や私の住居の近所は非常に充実しています。ずっと百道浜に住んでいるので、他のエリアは詳しく見ていませんが、全体的に整備が進み、都市全体が発展していることは間違いありません。

ご存じのように、福岡は、2006 年『Newsweek』誌で世界の中のホットな 10 都市の一つに選ばれましたし、昨年は、イギリスの『MONOCLE』誌の世界で最も住みやすい都市ランキングで、アジアの都市では最上位にランキングされています。海外からも高く評価されている福岡の特性は今後も維持してほしいと思っています。

アメリカの例になりますが、私の出身地テネシー州の南側にあるジョージア州アトランタ市は、数年前から人口が急速に増え今や大都市になっています。友人の話によると、都市全体のプランニングが不十分なまま発展してきたので、インフラ整備が不足するなど、いろいろな不便があったそうです。都市が大きくなり始めた頃は、嵐がきたり雷が落ちたりすると、よく電気が止まって大変だったようですが、現在は 8 車線のフリーウェイが整備されるなど、インフラ面はかなり良くなっています。

日本では、福岡や東京などの都市で大きな台

風を何度か経験しましたが、福島の原発事故以外で電気が長時間止まった記憶はありません。福岡では水不足が問題となった時期もありましたが、渇水対策が講じられているので、今後はあまり心配することはないでしょう。

インフラ整備の状況や、交通の便の良さ、自然が近くにあることなど、福岡の住みやすさを考えると、これからも人口は増加することになるでしょう。何年か前の調査によれば、これから20年間で人口が増える大都市は、日本では福岡くらいだと聞いたように記憶しています。人口の増加に対応しながら都市基盤を整備し、行政や企業がいろいろと計画していくことで、これから福岡はさらに大きな都市になっていくと思います。

日本の家庭が変わった25年

日本全体の流れに少し触れると、来日当初は、社会に対する不安感や恐怖感は全くありませんでしたが、最近は凶悪事件なども耳にしますし、少し治安が悪くなってきているのではないかと感じます。

また、家庭の教育に関係することでは、家庭と社会との関わり方がかなり変わってきたのではないかと思います。小・中・高ほどではありませんが、大学でも保護者からのクレームが問題になることがあります。家庭内の親子関係も変わってきていますね。かつての日本は子供の天国だったように思いますが、今は子供が少しかわいそうなところもあります。

良い方向に変わったところもあります。25年前、公園で私以外に子供と遊んでいる父親を見たことがありませんでしたが、最近は週末の公園で父親の姿をよく見るようになりました。家庭のことは母親の責任だけでなく、父親の責任でもあるという共通認識ができてきたように思います。

名実ともにアジアの玄関口になろう

福岡はアジアの玄関口とよく言われますが、名実ともにそこまでは至っていないのではないかと思います。

シンガポールや香港はまさしくアジアのハブとして機能していますが、福岡はそこまで至っていません。ただ個人的には、福岡の方が恵まれていると感じます。夏はちょっと暑く、冬はちょっと寒いですが、四季折々の風情が感じられるし、都市環境と自然環境が上手く調和していると思います。市内の交通では、空港に地下鉄が乗り入れていますし、空港から20分以内で主要施設へ行ける環境は、他の大都市と比較しても大きなメリットだと思います。都市高速環状線整備や九州新幹線の全線開通などによって、交通の利便性はさらに高まっています。

このような利点を活かして、空港や港湾をもう少し整備して、アジアのハブとしての役割を担える都市を目指してほしいと思います。アジアとの距離が東京・関西より近いですから、アジアの人たちがまず福岡に来て、日本全国へ向かうようになれば良いと思います。福岡がアジアのハブ機能を持てば、アジアから福岡、福岡から欧米といった人の流れもできるのではないでしょうか。個人的な希望ですが、アメリカ直行便が復活したらさらに嬉しいですね。

アジアのハブになっていくには、観光スポットについても改善できたら良いと思います。福岡に人を招いて、どこか観光に連れて行く際、太宰府天満宮や箱崎宮、能古島の自然を紹介した後、その次に連れていけるような場所がなかなかありません。福岡には非常に長くて深い歴史がありますので、福岡城や志賀島の金印など歴史資源を活かした観光スポットをつくってほしいと思います。また、韓国、中国をはじめとしたアジアとの長い関わりの歴史もあります。本学の敷地内にも元寇防塁の一部を移築保存して一般公開していますが、福岡はうどんや

饅頭、お茶などの発祥の地とも聞いていますし、他にもたくさん歴史的・文化的価値が高い資源があると思いますので、その特徴を利用して、もっと PR してほしいと思います。

学生の国際交流を進めよう

福岡は、京都、東京に次いで人口当たりの学生数が多い都市だと聞いています。レベルの高い学校も多いので、この点をさらに伸ばして、九州、日本、アジアをリードする地位を築いて欲しいと思います。

西南学院大学では、今年 8 月に、日中韓の交流プログラムを実施します。西南学院大学、上海交通大学、釜山の釜慶大学校の 3 大学が協力し、各大学 10 名、計 30 名の学生が 1 クラスを編成し、3 大学を巡回しながら福岡、上海、釜山の各都市における歴史や文化、経済、社会について学ぶプログラムです。まず、上海、釜山の学生が福岡に来て 4 日間授業を受け、次に釜山へ行き、最後に上海へ行くといった内容で、各大学で授業を受けながら学生同士の交流・理解を深める、非常におもしろいプログラムになっています。定員の 2 倍近くの応募があるなど、学生の反応も良かったので、今後も継続できればと思っています。

アジアの大学とのこのような連携は重要だと思いますので、今後もさらに関係を深めていきたいと考えています。グローバルな人材が育つために一番大切なことは異なった文化の人々と交流することです。留学生と日本人学生の交流が深まれば、学生はいろいろな視点で物事を考えられるようになり、必ず世界に目を向けるようになると思います。

西南学院は 21 世紀のテーマを“Impacting the world”と設定し、世界に通用する人材を育てることを目指しています。大学では、将来的に在学生の 1 割に当たる約 800 名に長期・短期の留学を経験させたいと思っています。うれしいことに留学する学生は年々増えており、今年は 400 名程が留学することになると思います。

しかしながら、事情があって海外派遣留学や語学研修に参加できない学生もたくさんいますので、福岡市にも学生の国際交流をサポートする具体的な取り組みがあれば素晴らしいと思います。留学生サポートセンターのような交流の場をもっと増やすことも重要ではないでしょうか。

最近では、西新界隈の学生向け住宅でも九大伊都キャンパスへ通う留学生の姿を見かけるようになりました。本学周辺にはいろいろな国の学生が住んでいますので、留学生と日本人が一緒に暮らし、日常的な国際交流が活発な街になってほしいと思います。

私は私立大学連盟の理事の一人でもあり、国の関係機関と接する機会がありますが、外国人の感覚として率直に言えば、何もしていないとは言いませんが、国は国際教育をあまり重要視していないのではないかと感じることがあります。国ができないことを、市や県に補ってもらえたら、福岡はもっと大学の都市として発展するのではないでしょうか。

若者の素質を伸ばそう

この 25 年間、学生の入学後の勉学に対する姿勢はだいぶ変わってきたと思います。

かつてのバブル期などは、就職が好調でしたので、厳しい大学受験をようやく乗り越えた新入生たちは、のびのびとした学生生活を送っていたと思います。今の学生は、卒業できるか、就職できるか、といった先が分からない不安を常に抱えている分、自分で頑張らなければ未来がないという意識が高く学びに対して熱心だと思います。

残念ながら、社会はこのような若者の熱意を生かしきれていないように思います。これは、

国、自治体だけの問題だけではなく、大学、大学間の問題でもありますし、義務教育・高校教育にも関わる大きな問題ではないでしょうか。

多様な民族がともに暮らすまちを目指そう

かつての福岡では、私を見て「外人だ、外人だ」と言う人が結構いましたが、今は、中国をはじめアジアや欧米など世界各国からの留学生や、学生以外の多くの外国人がいますので、外国人は特に珍しい存在ではなくなりました。ただ、それぞれの国の生活様式、文化、宗教などに対する理解が深まっているかというと、まだまだ不十分だと思います。また、外国人を受け入れる雇用の場があるかというと、それもそう多くありません。

都市全体が国際化するために一番良いことは、様々な民族が一緒に暮らして、一緒に働いて、一緒に意見を言い合う、そんな自然な社会のつながりが存在していることだと思います。ですから、サンフランシスコやロサンゼルスのように、チャイナタウンなど特定の人種が集まるような地域をつくる必要はないと思います。

歴史的にみても、福岡には外国人を受け入れる素地がありますので、大学、行政、企業、市民、みんなで協力すればさらに国際化された都市を作っていけると思います。

インタビュー日:2011/7/28 文責:URC 栗原